

日本建て直しの針路を探る

いかに活力ある日本を 取り戻すか



松田 学 (まつだ まなぶ) 氏の略歴

1957年生まれ。1981年東京大学経済学部卒業、同年大蔵省に入省。大阪国税局査察部長、大蔵省大臣官房企画官、財務省本省課長などを歴任。2010年退官、参院選に「たちあがれ日本」より立候補。現在、横浜市立大学客員教授、また、言論NPOに設立時より参画、NPO横浜ひとまちくらし研究会理事なども兼務。

村上 政敏 (むらかみ まさとし) 氏の略歴

1935年生まれ。1957年早稲田大学教育学部卒業、時事通信社に入り、ニューヨーク特派員、経済部長、編集局長、96～03年社長。政府税制調査会委員、外為・関税率審議会委員、社団法人日本広告審査機構理事長など歴任。仏レジオン・ドヌール勲章受章。

国もあり、世界全体がすぐに脱原発ということは無理だけに、ソリューションを踏まえて安全な運用モデルを示していくことが、これだけの事故を起こしてしまっただけの事故を起してしまっただけの責任でしょう。それからエネルギー政策をどうするのかという、大きな問題を突きつけられています。原発の新設はすべて中止せざるを得ない気もしますが、そうしたらCO₂二五%削減の目標を先送りするのか、目標を掲げること自体をやめるのか、大きな選択を迫られます。また、世界で一番電気が高いと言われているわが国が、急にクリーンエネルギーに転換したら莫大なコストがかかり、電気料金を上げざるを得なくなるでしょう。そこで問われるのは、国民負担の問題だと思えますね。国民負担を求め

針路を探る

取り戻すか

東日本大震災による衝撃は、原発事故によるエネルギー危機だけでなく、政治の空転による復興施策の遅れも加わり、国民生活を暗いものにしていく。この難局からいかに立ち上がり、活力ある日本を取り戻すか。新たな時代を切り開くモデル像を掲げるときだ。(聞き手 本誌編集長 広瀬清晃) 六月十日収録

――震災復興の在り方を論じる前提として、まずこの大きな被害をわれわれはどうとらえ、どの方向への復興を目指すべきなのでしょう。

村上 この震災は不幸なことに、天災と人災が重なった複合的な災害だったと思います。これに対して迅速かつ柔軟に対応していかなければなりません。処理できている瓦礫はまだ一五〜二〇%程度ということだと思います。これは法を超えた方法で対処していかなければならないでしょう。

そして電力については、今慌てて風力だ、太陽光だ、LNGだ、などと言っていますが、年単位で進めるべきもので、すぐに供給は出来ません。従って、

今は限られた電力で出来る限り産業の維持を図っていくしかないでしょう。

今回の原発事故の人災としての側面についてですが、もし外部電源にももっと備えがあれば冷却在スムーズに出来たので、それは反省しなければいけない。だが、東電だけの問題ではなくて原子力に携わる研究者も含め、一般の認識も甘かったのではないのでしょうか。安心と言われ「本当に安心か」という点で国民が議論を尽くすべきでもあったのでしょうか。

また、今回の最大の被害は、東北地方の基幹産業である農業と漁業ですが、これを目に見えない形で復興させるのが一番のテーマでしょう。

この震災に際して、エネルギーはどうするのか、災害に対する対応、町を新しい二十一世紀型のコミュニケーションとして復興すること、様々な課題に日本はどう答えを出していくのか、世界中が注目しています。まさに「危機をチャンスに転じる」という意味で二十一世紀の日本が切り開けるかどうかが問われているときなのだと思います。

原発問題は天災であり人災でもあると思いますが、原因を徹底的に解明する必要があります。世界全体でもエネルギー大転換の動きがありますが、一方で当面、原発に頼っていくしかない

ながらクリーンエネルギーへの
転換を進めていくことに早急に

「コストからバリューへ」

――瓦礫の片付けなどを公共事
業として一本化して進めること
は出来ないものかという声もあ
りますが、歯がゆく感じますね。

村上 やはり費用負担は最終
的に国がすることになると思
います。でも市町村が現実に仕
事をするわけで、そのときに地
方議会を開くなどの手続きが積
重なって遅れている部分がある
ようですが、非常事態ですから
超法規的にやっていくべきだ
と思います。第一段階として、
瓦礫が除去されなければ農業も
漁業も出来ません。漁業につ
いて言えば、被災地三県には港が
三〇ほどあるわけで、国として
も手の出しようが無い。拠点を
大きくし、広域化していくし
かないでしょう。せつかく圃場
整備という事業が進みかけて
いて、それが津波に流されてしま

合意形成をしなければならぬ
局面にあると思います。

ったのですから、もう一度圃
場整備を広域化の視点でやっ
ていくことです。その間に法律を
整備し直していくことが大事だ
と思います。

松田 私は四月末に被災地を
訪れ、そこで感じたのは、村上
さんがおっしゃる通り特別立法
で国がやらなければいけない
ということ。例えば、津波に
やられた広大な土地はしばらく
農業が出来ない壊滅状態で、あ
の土地の所有権を考えていたら、
とても手が出せません。日本は
TPPを迫られていて大規模農
業を必要としていますから、塩
分を抜くため大規模農業をや
って、高台に住んでそこから通
勤農業をやってもらう……とい
う大きなことをやらなければ
と感じましたし、もう一方では
難しいとも思いました。

なぜかと言うと、東北地方と
いうのはコミュニティがもの
すごくしっかりしていて、把握
力は行政以上です。従って、大
きな国の構想と県単位、市町村
単位、更にコミュニティ単位
の何層にもわたるすり合わせを
して住民の納得を得ながら、と
いうことになりません。これは大
変な時間と労力を要する大事業
にならざるを得ないでしょう。

日本はこれからの持続可能な
社会のキーワードとして、私は
「コストからバリューへ」と言
っています。コストは国民負担
を意味し、税金などの形を取り
ますから、金額の最小化と公平
な分担が求められる世界です。
一方、バリューは人が評価をし
てお金を出すということです。
モノを買うのも、投資するのも
バリューです。「これは素晴らしい
」と思ってみんながお金を
出したら、その金額は大きいほど
社会に価値を生み出すことにな
ります。今、コストセンターとな

っている東北を、いかに産業を
含めたバリューセンターにして
いくか、と考えていくべきだと
思うのです。

それから、施策の遅れや統一
性の欠如が批判を浴びていま
す。その一つの大きな原因は、
役人出身の私から見ると、政治
主導の名のもとに、実務レベル
での調整や決定が滞っているこ
とでしょう。例えば、役人の方
々が立案を出そうとしても、
「他省庁との調整は政務三役を
通してやれ」となって、政務三
役からのお達しを待っている
と、莫大な時間とコストがかか
っているということがあるよう
です。この状態が続くと役人が
やる気を無くしてしまい、役所
の機能低下が進んでしまうの
ではないか心配です。

村上 確かに当事者である被
災者の意向、要望を聞くことは
大事だと思うんです。ただ、
それを聞いてばかりいたら
前に進めませんよね。法の制約

があり、それを超えられるのは
政治の力です。政治家はみ
んなそこで力を発揮しなければ
いけないのに、今の政治は、そ
の法律以下の範囲の話で空回り
しているから批判されている
です。それを超えるのが「政治
主導」であるわけです。

従事者が大きく減ってしま
う危
機
的
状
況
で
す。
日
本
の
農
業
を
広
域
化
す
る
こ
と
の
最
大
の
メ
リ
ッ
ト
は、
農
業
に
若
者
を
参
入
さ
せ
ら
れ
る
こ
と
で
す。
若
者
が
農
業
に
従
事
し
て
く
れ
ば、
耕
作
効
率
も
向
上
す
る
の
で、
付
加
価
値
を
生
み
ま
す。
そ
う
考
え
ら
れ
ば、
先
ほ
ど
松
田
さ
ん
が
お
し
や
つ
た
「
コ
ス
ト
か
ら
バ
リ
ユ
ー
へ
」
と
い
う
転
換
が
出
来
る
で
し
よ
う。

私が復興庁に一番期待してい
るのは、地方分権の一つの将来
の姿として道州制を目指しても
らいたいということです。その
ためには、その方向に
持続可能なシステムを
作っていかねければな
りません。

松田 日本そのもの
が試されているような
思いがしますね。

いま進められている
放射能除去プロジェクトが
その一例で、植物を植



えて土壌の放射能を吸収させる
という方法です。チェルノブイ
リではヒマワリが使われました
が、ヒマワリよりもっと効率良
く放射性物質を吸収してくれる
植物は多数の種類があり、品
改良してベストなものを植える
のですが、除去の過程で放射性
物質を一切含まないエタノール

意気に感じてお金を負担する

――さて、いろいろやらなければ
ならないのですが、肝心の財
源はどうするのですか。

村上 国費ベースでいくと、
第一次補正の四兆三千億円を除
いてさしあたり必要なのは十
五兆円程度と言われています
が、その額で済むのかどうかは
まだ分かりませんね。ただ、や
はり基本的にはまず国債です。
赤字国債ではまずいですが……

その次に、景気への影響を注視
しながらの実質増税になりま
す。国債を償還する財源は増税
という形での国民負担だと思

が出る植物もあります。これを
バイオマスを使った事業にす
る。つまり土壌の汚染処理だけ
ではなく、収入を伴う次の新し
い農業展開への足がかりにし
ていこうという考え方ですね。地
域全体が共同で行うことによ
って、新しい農村コミュニティ
も構築されるかもしれません。

ます。所得税、法人税、消費税
とありますが、消費税は社会保
障の問題が残っているんで、ご
ちゃ混ぜにしない方がいいので
はないかと思えます。

復興財源なので、いわ
ゆる「意気に感じて」という領
域だと私は思っています。義援
金が二千五百億円以上集まった
と言われていますが、消費税な
らば一%で二兆五千億円ぐら
いになるわけですから、もう少し
義務化した確実な方法で集めて
はどうかと思えます。

いくらか知恵を出しても、使

ったお金というのは何らかの形で国民が負担しなければいけないわけで、後世に負債を残さないためにも現世代の人間はここまでやった、ということを示す良い機会です。

松田 今、村上さんが「意気に感じてお金を負担する」とおっしゃいましたが、私も大賛成です。

日本の金融資産がグロスで二千七百兆円で、一千四百兆円の個人金融資産があります。一千四百兆円というのは、いわゆる家計部門の持っている部分で、そのほか金融以外の法人部門が七百数十兆円、それから政府部門が四百数十兆円、合わせて約二千七百兆円です。これは要するに、ポートフォリオなんですね。二千七百兆円のうち、ポートフォリオを一%震災復興にシフトしたら、二十七兆円の財源が生まれます。そして日本は世界最大の純債権国で、対外純資産額では世界でトップの約二百

七十兆円です。

われわれが汗水垂らして築き上げた日本の巨額の金融資産を、震災をきっかけにして生きたマネーとして有効活用すべきではないかと思えます。問題は、その莫大なストックを引っ張り出す知恵なんですね。やはりそれだけの金融資産が魅力的な運用先に流れていくわけですから、先ほどおっしゃった「意気に感じる」ところに使っていいと思うのです。

私が提案しているのは、「助け合い公債」というものです。例えば国が一般会計の中で財政規律と言っているのですが、震災は違うと思うのです。震災対応で調達するものは国債である税金であれ一本化し、すべて震災対応に使うのです。そうすれば国民は自分の税金や買った債券がどこに回るのか見えます。この際、民間も単に有利運用ではなく、復興基金のようなものをつくるのです。多少金利が有

利でなくても投資してみようというニーズがあるはずですよ。

ただ、村上さんがおっしゃったように赤字国債は出すべきではないので、どうしても出さざるを得ないときに増税という選択肢が出てくるのだと思いません。建設国債は、当然、将来返し

超高齢化時代と税制

——もう一方で、原発の補償の問題がありますか？

松田 私は、そもそも原子力事業は株式会社がやるべきものであったのかというところまで考えないと解決できないような気がします。東京電力はリストラをして補償金を捻出すると言っています。それでも賄いきれない可能性はあるでしょう。

そのときに電力供給体制の抜本的見直しとつなげながら、原子力というものすごいリスクを株式会社に負わせて良かったのか、という議論をするべきでしょう。個人的な考えとしては、

ていかなければいけないのですが、将来資産を残すために借金をしているわけです。これから「国家百年の大計」で、百年にわたる次の世代にきちんとしたものを残すのですから、それは少しずつ負担してもらっても良いのではないかと思います。

国がこれだけリスクの大きい原子力政策を積極的に進めてきた以上、国も責任を負うべき部分があると思えます。

村上 財源負担について、松田さんは非常にいいアイデアを出しておられると思います。日本の純資産の活用の方ですね。今、標準的な給与所得者の所得税を見ると、年収五百万〜五百五十万くらいのところ、所得税の負担率は四%程度です。その程度の負担で国は運営できるのか、と思えますよ。それから法人税ですが、もう二十年ぐらいずっと赤字の企業がたくさん

あります。全国で見ても欠損累積が七十兆、八十兆、これが二十年近く続いています。それから中小企業でも、同族会社の留保課税が無くなった。いったいどこから税金を取ったらいいのかという姿ですよ。

社会保障がどんどん伸びているのに、逆に収入の方は下がっているのが現状です。だから今、優秀な役人が知恵を出すと、国民は「これで済むんだ」と思ってしまうので、今が我慢のしどころだ、と言ってもらわないといけないですね。国民負

担率が七〇、八〇%程度のスウェーデンやデンマークと比べるまでもなく、日本の国民負担率は三八%の恵まれた国なのだと、いうことを国民が認識しなければいけませんよ。

松田 それはよく分かります。私にはなにも財政規律を無視していいとは思っていません。そうではなくて、震災については「コストからバリュウ」の世界を作りましょうということとです。一般会計はしっかり財政規律を守らなければいけません。二つを切り離して考えるべきだと思えます。



一般会計の分野では、なぜこんなに財政状況がひどくなったのかと言えば、原因は超高齢化社会ですが、それに対して財源面の手当を三十年怠ってきたわけですね。私が役所に入ったのが一九八一年ですが、ちょうど鈴木

善章総理になり、「増税なき財政再建」を始めて、そのころから実質的な増税は全然実施されていないんです。消費税を導入したときも減税の方が上回っていました。当時から既に将来的な高齢化社会は見えていたにもかかわらず、

国民に受益と負担を問い直す

——それでは、どうすればいいのでしょうか。

松田 社会保障と税の一体改革の中で少しずつ消費税を引き上げるという発想があります。多くの事業者が「利益率が一、二%しかないところで消費税増税なんて無理だ」と言います

が、それでは十年ぐらいかけて毎年一%程度引き上げるといのはどうでしょうか。消費者がいつから一%引き上げられるか分かっているれば、多少前倒し消費の行動をとるので景気は向上します。そして物価上昇要因が毎年一%ずつ組み込まれることでデフレ対策にもなります。供

かわらず、今の日本の高齢化社会にふさわしい税制にまだになっていないのです。これはひとえに政治が人気取りを続けてきた結果ですが、そんな中で、世界で一番厳しい形で超高齢化社会を迎えるのです。

給側も、毎年の生産性上昇率を一%以上引き上げようというところで努力目標が見えてくるため、業界ぐるみで生産性向上を目指せます。結果として景気にプラスになりながら税負担を解決できるでしょう。

ただ社会保障の財源を怠ってきたから震災復興財源が無い、あるいはケチる、というのは筋が違うでしょう。社会保障と震災対応は別の枠組みでやるべきだと思えます。

治水を全国でやらないといけません。その財源の確保という意味では、松田さんの提案には大賛成です。これを怠ったことが、今度の震災でも大きな原因になっていくんですよ。

私が、今一番必要だと思ってるのは、国民意識をもう一度問い直さなくてはいけないということなんです。財政の立場だけでなく、この国自体の持続可能なシステムを考えたときに、国民の受益と負担をもう一度改めて問い直すのです。社会保障は

自助、公助、

松田 受益と負担の問題は、日本の次の政治的選択において重要な論点になるでしょう。日本は中福祉を実現しようと思つたら、高負担にしなければいけなくなると私は思っています。人口構成からみて、ヨーロッパ並の福祉をやろうと思つたら若者の負担はとてつもなく重くなつてしまいます。民主党は

ものすごい勢いで伸びています。そのときに消費税は、いったいついていけるのか、何十%でも国民は払うのか、という問題があります。

昔は中福祉・中負担というところで始まったのですが、いつの間にか高福祉・低負担になってしまっているのではないですか。このままいったらこうなる、ということとを与野党関係なく国民に問い直し、国民の意思が選挙に反映する、ということが大事だと思います。

共助の選択

いからそうは言いませんが、「私たちは限りなく消費税率の高い国を目指しています」と言っているような施策をやろうとしました。自助・公助・共助と言われていますが、公助つまり政府がおんぶにだっこでやる、子ども手当などを全部税負担でやるとしたら、その帰結は消費税率二五%以上の国です。

一方で、小さな政府を目指す、つまり自助の方向です。それで経済的に成り立てばいいのですが、日本のような超高齢化社会で成り立つでしょうか。むしろ、消費税率は上げなければいけないけれども、出来れば二〇%ぐらいで収まる程度にして、負担でない部分でお金を持つている人が喜んでお金を使うようなバリュウを組み立てて、それが低所得者の医療や福祉などに回っていくような仕組みはどうでしょうか。その軸をもう一本政治にも立てて、自助・公助・共助のどれを選択するのかで政党が分かれてこそ、国民に選択肢があるという気がしています。

なのだろうか、という気持ちに国民はなつたはずですが、それからもう一つは、事務次官会議をやめたり官僚を国会の審議に登場させないと言ってみたり、ああいうくだらない枝葉末節で政治主導だと思ひ込んでいます。日本の官僚は優秀だと思いが、もつと優秀な官僚にしているかないとダメですよ。官僚が優秀でない国が発展することはありません。政治家がいくら立派なことを言っても行政として組織につながらなければなりません。組織立ててやるには官僚の力をうまく政治家が使わないと出来ません。今の民主党政権のようなことを言っていたら、官僚になる人はいませんよ。学生の希望進路は、一位が優良企業の社員で、官僚は三番目か四番目というのですから、国の将来を考えると、こうした状況ではいけないと強く思います。

——貴重なお話をありがとうございます。

S